

盛岡市立高等学校の「これまで」と「今」

1920(大正9)年～
盛岡実践女学校

1925(大正14)年～
盛岡女子商業学校

1940(昭和15)年～
盛岡市立女子商業学校

1948(昭和23)年～
盛岡市立女子商業高等学校

校舎位置 1 大正9年～ 2 大正12年～ 3 昭和4年～ 4 昭和16年～

開校時は、校舎も机もすべて借り物でした

戦前から戦後の通学服

戦時には、もんぺ姿で勤務奉仕ばかりしていました

統一した制服はなく、色々な通学服で授業を受けていました

盛岡市立女子商業学校と盛岡市立第一高等女学校時代の通学服

1940(昭和15)年～
盛岡市立第一高等女学校

1948(昭和23)年～
盛岡市立女子高等学校

校舎位置 1 昭和15年～ 2 昭和16年～ 3 昭和18年～

1949(昭和24)年～
盛岡市立高等学校

生徒会長 3年 佐々木 颯太さん

100年という長い歳月の重みは、私たちの想像の遠く及ばないところです。その間、先輩方には、喜びや悲しみ、そして数々の栄光、時には挫折、一言では語り尽くせないたくさんのドラマがあったと思います。これらを思うと、この盛岡市立高校に身を置き、学んでいることに幸せと責任の重さを感じます。私たちは、全ての人々との「絆」から、大きな力を与えられました。今後校訓を胸に、一人一人が「志」をもって成長していきます。

男子は学生帽をかぶっていました

盛岡市立高等学校初期頃の制服

5 昭和24年 6 昭和33年～ 7 昭和57年～

地図 校舎移転の変遷

大正9年に、現在の肴町での間借り生活から始まった本校は、これまでに8回も校舎を移転し、現在の場所に至っています

イラスト提供：盛岡市立高 美術部

盛岡実践女学校
(大正9年～大正14年)

創立者の富田小一郎を校長に、教員4人を迎え、盛岡尋常高等小学校分教場(現在の市立杜陵小、地図①)の教室を2部屋間借りし、1回生約80人で盛岡実践女学校が開校しました。富田の志に賛同し集まった教員らは、他の学校や会社勤めの傍ら都合を付け、午後に一斉に授業を行っていたといいます。私塾であったため、生徒は間借りしている尋常小学校の設備や井戸水を自由に使えず、冬は中津川の水を割って水をくみ、拭き掃除をしたといったエピソードも。そのような中でも、富田の熱意に応じて生徒らは熱心に授業を受け、明るい学校生活を送ったといいます。

大正12年12月には、尋常小学校の児童数増加により教室を間借りできなくなり、紙町(現在の上ノ橋町)に移転(地図②)します。創立当初の学校生活の苦労を知る卒業生たちは、念願の独立校舎となるこの建物の改築費用を捻出するため、1軒ずつ家を回るなど、熱心な募金活動を行いました。

盛岡女子商業学校
(大正14年～昭和15年)

富田校長が何度も上京して文部省に陳情した結果、私塾であった盛岡実践女学校は「実業学校」として国の認可を受け、「盛岡女子商業学校」として改組・設置されました。

富田ら創設者が私財を投じてそそえた実践女学校時代の生徒用の机や椅子、図書類、ミシンなどの設備は、そのまま盛岡女子商業学校に引き継がれました。また「裕福でない家庭の子女にも教育を」という学校設立の趣旨に基づき、授業料は他校の半額に近い1円50銭、教員らもほぼ無報酬と、経営の苦しさは変わらない状態でした。授業は、社会に出てすぐ役立つようにと簿記や珠算、英語のほか、裁縫や作法などが行われました。富田校長は、「健全な肉体に健全な精神が宿る」を経験させようと、一日5里(約20㍍)を歩く「歩け歩け運動」、また宮古まで海水浴に行く「泳げ泳げ運動」など、単なる商業教育にとどまらない、熱心な授業が行われました。

昭和4年には、内加賀野小路(現在の上ノ橋町、地図③)に校舎を新築し、移転しました。

大正11年 2期生と先生

◆女子教育のパイオニア
とみた こいちろう
創立者 富田小一郎 (安政6(1859)年～昭和20年)
〈プロフィール〉

田浅岸村新庄に生まれる。帝国大学(現在の東京大)を卒業後に帰郷し、岩手県尋常中学校(現在の県立盛岡第一高)や盛岡市立商業学校(現在の県立盛岡商業高)などの教師を務める。教え子には、米内光政や石川啄木など多くの優秀な人材がおり、厳しくも、生徒に敬愛され慕われていたと語り継がれている。85歳で亡くなるまで教壇に立ち続け、「教育者」として生涯現役を貫き通した。

女子には選挙権もなく、教育を受けられるのはごく一部の裕福な家庭の子女に限られていた時代。市内では、明治25年に私立盛岡女学校(現在の盛岡白百合学園の前身)、同30年に市立盛岡高等女学校(現在の盛岡第二高の前身)が創設され、女子教育が本格的に行われ始めていました。一方、全国的に見ても女子に対する商業教育がほとんどなかったこの時代に、富田は私財を投じて、県内初の女子商業学校であり盛岡市立高等学校の前身となる「盛岡実践女学校」を設立しました。富田の「裕福でない家庭の子女にも、より高い教育を受けさせたい」、そして「単なる花嫁修業ではなく、社会人として自立できる力を与えたい」という熱い理念は時代を先取りしており、その意義は非常に大きいものであったといえるでしょう。

昭和14年6月 富田先生の謝恩会(右から) 米内光政海軍大臣、田中龍愛樞、富田、板垣征四郎陸軍大臣

昭和18年 引っ越しの様子

盛岡市立高等学校
(昭和24年～現在)

盛岡市立女子商業高等学校と盛岡市立女子高等学校を統合し、盛岡市立高等学校が創設されました。校舎は現在の下小路中の敷地内にありましたが(地図⑤)、昭和33年には現在の加賀野地区活動センター付近(地図⑥)に移転、昭和34年には男子が普通科に入学しました。

昭和57年には現在の上太田に校舎を移転(地図⑦)。また英語科が新設(現在は閉科)され、普通科・商業科を合わせ全学科が男女共学となりました。

令和2年現在、生徒数は約840人と創立時の10倍以上、また男子生徒の方が女子生徒より100人以上多くなっています。

現在の校舎

●創立百周年事業 延期のお知らせ

10月17日(土)に開催を予定していた、創立百周年記念式典・講演会・祝賀会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来年10月16日(土)に延期することにしました。また、記念誌の発刊と募金活動も延期します。

盛岡市立高等学校
高橋 正浩校長

創立百周年を迎え 歴史と伝統を継承し、次の百年に向けて更なる進化を追求します。

創立百周年を迎えた本校は、各界で活躍する多くの優れた人材を輩出しています。本校生徒へのアンケートでは、6割の生徒が「部活動を精一杯やりたい」と思って入学した」と答えています。学習はもとより生徒会をはじめ、運動部や文化部、各種委員会、校外活動など生徒の誰もが目的意識を持って活動し、必ず活躍できる場があるのが本校の特徴になっているのと感じます。本校に集う生徒は、毎日元気に光り輝きながらさらなる新たな歴史を創ろうと日々たゆまず、力強く、まい進しています。

そして今...

国公立大学や私立大学・専門学校などを合わせ、8割以上の生徒が進学!!

就職率は16年連続100%達成!

●普通科特別進学コース
3年 なかしま ひろと 中島 大翔さん

●普通科進学コース
3年 古川 もか 萌華さん

●普通科総合キャリアコース
3年 まさや 将哉さん 3年 朝日 さくらさん

●商業科

国公立大学への進学を目標に勉強しています。少人数制授業のため、充実した授業が受けられ、部活動でも弓道部の部長として活動することができ、文武両道を目指すには最適な学校だと思います。

4年制大学進学のために1日1日を大事にして動んでいます。行事にも全力で取り組むことができ、とても楽しいです。

普通科総合キャリアコースで先生からの確かなアドバイスを頂き、自分にあった進路を見つけることができました。また、サッカー部でレベルの高い活動ができ、学習との両方に専念できました。

商業科目の勉強はほとんどの人が高校で初めて経験しますが、分かりやすい指導のおかげで簿記などの検定に合格することができました。また、商業科は2クラス制のため友達との仲を深めることができ、毎日楽しく生活しています。

運動部が15部、文化部が14部あり、それぞれが多彩な活動を行っています。新体操部は、平成8年から24年連続でインターハイに出場。吹奏楽部は第44回全国高等学校総合文化祭(2020こうち総文)に出場しました。

■新体操部

■吹奏楽部

市長コラム

盛岡市立高は、県内で唯一の「市立」の高校です。スポーツ推薦枠の拡充や一芸入試、特別進学コースの後期入試制度など、県立高校とは異なる、特徴ある入試制度を実施しています。スピードスケートや極拳、輪車競技などでは、生徒たちは全国の舞台で活躍していますし、他の運動部の活動も盛んに行われています。長い歴史と伝統に培われた校風で学ぶ生徒の皆さんの活躍を一層期待しています。

盛岡市長 谷藤 裕明

2 広報もりおか 2.10.1

広報もりおか 2.10.1 3